

令和5年度学校関係者評価委員 報告

令和5年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

1. 学校関係者評価委員 敬称略

河野文夫 学校法人立志学園九州中央リハビリテーション学院 学院長

本 尚美 公益社団法人熊本県看護協会 会長

木村浩美 社会医療法人寿量会 ホームケアサポートセンター副センター長

村田 守 一新校区第六町内自治会 顧問

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日：令和6年3月25日（月）

3. 出席者 敬称略

河野文夫 学校法人立志学園九州中央リハビリテーション学院 学院長

本 尚美 公益社団法人熊本県看護協会 会長

村田 守 一新校区第六町内自治会 顧問

（書面回答）

木村浩美 社会医療法人寿量会 ホームケアサポートセンター副センター長

4. 評価項目

1) 重点目標

2) 教育理念

3) 学校運営

4) 教育活動

5) 学修成果

6) 学生支援

7) 教育環境

8) 学生受入れ募集

9) 法令等遵守

10) 社会貢献・地域貢献

I. 重点目標に対する学校関係者評価委員による評価

1. 教育活動について

臨床判断の向上につながるシミュレーションや ICT を活用した授業の取り組みができています。卒業生のキャリア形成の把握のための調査結果を、カリキュラム評価に活用していく。

2. 学生支援について

進路支援の充実ができています。退学や留年の減少も、学生支援の効果の一つと評価できる。

科目の構成では、科目選定の根拠を学生へ意味づけし、学習の動機づけが必要である。新カリキュラムとなり特に基礎分野は、教養を学ぶ新設科目もあり看護と結び付けて学ぶことができるよう講師との調整と教員の支援が必要である。

また、相談窓口はガイダンスに示しているが、周知することで支援の充実を図る。

3. 教育環境について

教材教具の定数化と、教務助手へのタスクシフトに取り組んでいる。学生数の増加もあるため、対応するための適切な教材や演習補助教員の配置と環境の改善については、評価しながら改善取り組む必要がある。

4. 学生の受け入れ募集について

高校訪問、オープンキャンパス、高校生 1 日看護学生体験などを計画的に実施している。平成 28 年と比較すると、受験者数の減少はあるが定員の 2 倍以上の志願者があり、学生確保対策の効果がみられている。オープンキャンパスなどに社会人の参加があるが、今後 18 歳人口の減少が予測され社会人の確保についても課題として認識し、検討する必要がある。

5. 社会貢献・地域貢献について

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行したことから、積極的にボランティア活動を実施できるようになっている。授業でも地域住民の参加型の講義の継続ができており、高齢者との交流の機会にもなっている。今後はさらに、ボランティア活動の機会が増えることが予測されるため、地域行事への参加を積極的に行ってほしい。

Ⅱ. 専門学校の評価指標を活用した質問紙による評価結果

評価項目		平均
教育理念に関する評価	1. 教育理念、教育目的・卒業時の人材像・学校の特色が明記され、学生や保護者に周知されているか。	4.0
	2. 教育目標、卒業時の人材像は医療の動向や社会のニーズに向けて方向付けられているか。	4.0
学校運営に関する評価	3. 病院全体の目的に沿った運営方針が策定され、その運営方針に沿って事業計画が策定されているか。	4.0
	4. 意思決定機能は規則等において明確にされているか。	4.0
	5. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4.0
教育活動	6. 教育理念、教育目的、卒業時の人材像を踏まえて教育計画を立案し、教育計画に則って実施し、評価、改善を行っているか。	4.0
	7. 社会のニーズや医療の動向を踏まえて教育内容を改善し、学生が主体的に学ぶことができるように教育方法の改善や教育の資質の向上のための取り組みを行っているか。	4.0
学習成果	8. 就職率、看護師国家試験合格率の向上が図れているか。	4.0
	9. 卒業率の向上が図れているか。	4.0
	10. 卒業後のキャリア形成の効果を把握し、教育活動の改善に活用されているか。	4.0
学生支援	11. 就職・進学に関する支援体制は整備されているか。	4.0
	12. 学生相談に関する体制は整備されているか。	3.8
	13. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4.0
教育環境	14. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3.8
	15. 学生が学校生活を快適に過ごせるように整備されているか。	3.3
学生の受け入れ募集	16. 学生募集は適正に行われているか。	4.0
	17. 学生募集活動は適切に行われており、その効果を評価しているか。	4.0
法令遵守	18. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.0
	19. 個人情報保護のための対策がとられているか。	3.8
	20. 自己点検・自己評価を実施し、その結果を公表しているか。	4.0
	21. 学校関係者評価を年に1回以上実施し、その結果を公表しているか。	4.0
社会貢献・地域貢献	22. 地域に対する公開講座・研修等の受託を積極的に実施しているか。	4.0
	23. 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	4.0

評価基準：4. 適切である 3. まあまあ適切である 2. 適切とまでは言えない 1. 適切ではない

Ⅲ. 総括

今後の課題について以下の４点が挙げられた。

1. 基礎分野など教養分野については、科目の位置づけを看護と関連させて考えられるよう動機づけし、効果的な学習の場となるよう支援する。
2. 教材や教育環境の改善に向けた取り組みを継続する。
3. 地域交流ができる教育内容の充実や、ボランティア活動による社会貢献ができるよう支援を継続する。
4. 卒業生のキャリア形成の調査結果をカリキュラム評価に活用し、教育内容の改善をはかる。